

「今どこにいるか」という考え方

この章でいちばん大事な回です

パソコンの中は建物、フォルダは部屋です。

部屋の中にまた部屋があって、その奥に紙が置いてある。そういう造りになっています。

部屋の中に、部屋があります



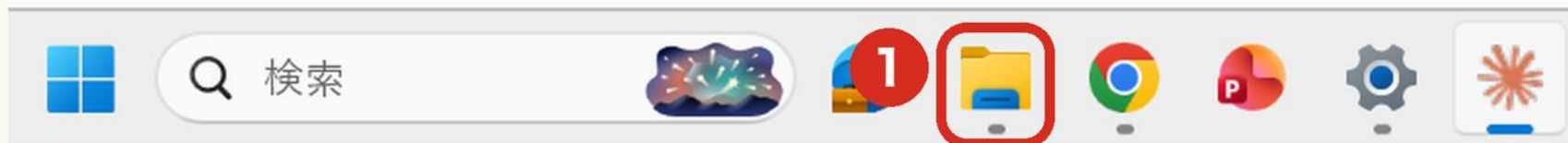
つまずきポイント

「保存しました」と言われて、どこに行ったか分からない

パソコンで一番よくある困りごとです。原因は、保存したときに「自分がどの部屋にいたか」を見ていないからです。逆に言えば、今いる場所さえ見られれば、この悩みはなくなります。

まず、フォルダの画面を開いてみましょう

1-2でやったのと同じ、画面いちばん下にある黄色いフォルダのアイコンです。ここから先の話は、すべてこの画面の中の話になります。



画面いちばん下の帯にある、黄色いフォルダのアイコンです

今いる場所は、ここに出ています

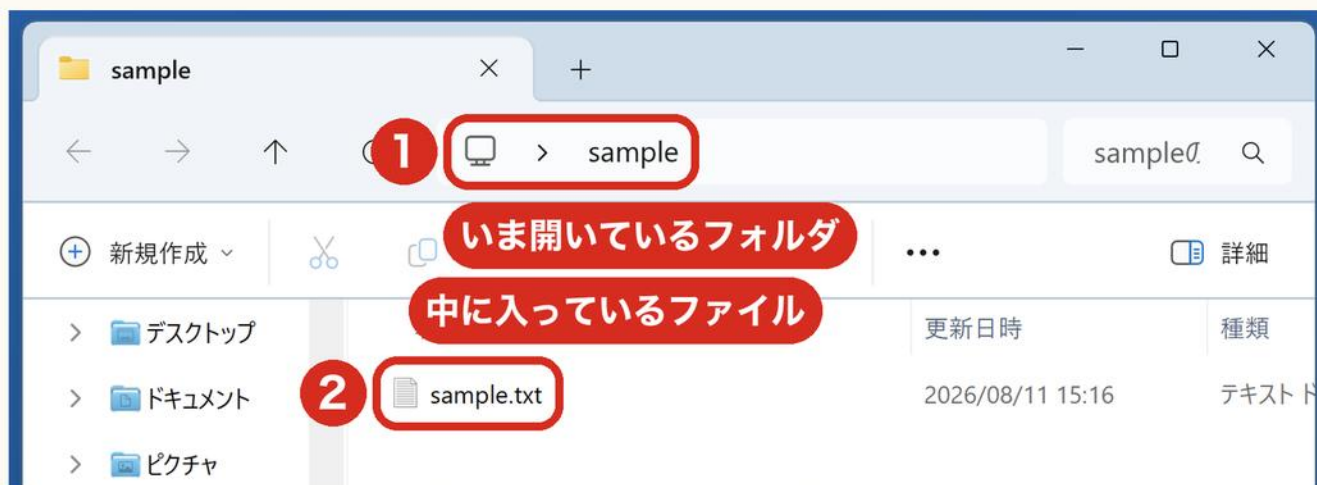
開いた画面の、上のほうにある細長い欄を見てください。左から順に、部屋をたどった道順が書いてあります。



この1行が「今あなたがいる場所」です

部屋の名前と、中身を見比べます

上に部屋の名前、下にその部屋に入っているものが並びます。この2つがいつも対になっています。



上が「今いる部屋」、下が「その中身」

専門用語

エクスプローラー

Explorer (エクスプローラー=探検する人)

パソコンの中の箱（フォルダ）と紙（ファイル）を見て回るための画面。画面いちばん下の黄色いフォルダのアイコンから開きます。Macでは Finder（ファインダー）が同じ役目です。

この講座では「エクスプローラーで開いて確かめる」という場面が何度も出てきます。Codexが作ったものを自分の目で見に行く、いちばん基本の道具です。

専門用語

覚えなくて大丈夫

パス

Path (ぱす)

目的のファイルまでの道順を、文字で書いたもの。「デスクトップ → codex → メモ.txt」を1行で表したものです。

覚える必要はありませんが、読めると「どこにあるか」が一目で分かります。人に場所を伝えるときにも使えます。

Codexも、渡した部屋しか見えません。

これが第4章で効いてきます。どの部屋を渡すかで、できることが決まります。

この回で残るもの

自分の作業フォルダの場所を、人に説明できます。

ここが分かったら、この先で迷子になることがなくなります。